

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500297		
法人名	社会福祉法人 百徳会		
事業所名	グループホーム 佐伯の太陽		
所在地	大分県佐伯市駅前1丁目1番11号		
自己評価作成日	令和3年1月17日	評価結果市町村受理日	令和3年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_det ail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500297-">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_det ail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500297-</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府庁番館1F
訪問調査日	令和3年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

未知の感染症が発見され実態把握とワクチン開発供給の最中、感染拡大は毎日に恐値が報じられており、感染対策の中で活動支援が展開した令和2年度の事業所運営、依然見通し不透明のまま1年の総点検の時期にさしかかっています。緊急事態宣言の発令以降は不要不急の外出や面会にも規制が布かれ、家族や馴染みの人達との接触や地域との社会交流が阻まれました。県外に暮らす家族の方には高齢になった肉親と会えない日々を余儀なくされ、その心中を察すると忍び難い昨今です。コロナ禍の新たな日常の中にあっても安定の図られた共同生活が継続されていくためには一番身近な支援者である職員が基本に立ち返し感染対応を行うことが第一です。自らの生活習慣を見直し健康管理に努め、正確な情報の収集と新しい知識・技術の習得等、専門性を磨きながら自己研鑽に励みコミュニケーション方法を工夫しています。24時間365日途切れのない医療連携体制のある環境を強みに気兼ねや遠慮のない安心感のある暮らしの提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、利用者一人ひとりの喜び・楽しみ・暮らし方などを把握し、利用者本位に生活できるよう理念に沿った支援をされています。コロナ禍ではありますが、季節ごとの催しでは職員が利用者のストレス軽減に配慮され、施設内の散策をするなど工夫した暮らしづくりをしています。地域に認知症の理解を深める活動や相談を受けることで、事業所の理解が増えています。現在コロナ感染拡大防止のため自粛していますが、ボランティア・施設の体験研修など、今できる方法で交流しています。施設近隣に当法人の病院があり、医療との連携が保たれ利用者・家族も安心して暮らしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げた用紙が目にとまりやすい場所にあり、業務を行う中で意識し利用者に向き合い最良のサービス提供が、できる様に取り組んでいます。	地域密着型サービスの意義・役割を管理者・職員で共有し、一人ひとりに合った個別支援を理念に沿った実践となるよう、心掛けがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、多人数が集まり内部で開催する開設記念、敬老会等や地域の商工会や公民館等で開催するイベント等での、交流は減ってきているが、状況を見ながら、継続し前向きに検討したい。	コロナ禍のため、これまで行っていた地域との交流は、休止・縮小せざる状況であります。利用者の要望に沿って、施設内や周辺の散策を行い、利用者のストレス等の軽減に取り組みがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験、介護福祉士国家試験受験過程に必須である施設実習の受け入れは可能な限り、状況を見ながら行い、認知症支援の方法や事業所の活動への理解を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の質の向上にむけ取り組んだサービス内容、入退居に於ける、利用者の変動を2ヶ月に一度会議を開催し報告、利用者、家族代表、地域の有識者等からの意見や励ましの声を頂き支援の向上や活動への原動力になっている。	今年度は感染症予防対策で一時期できない状況でありましたが、書面会議等開催方法を工夫し詳しく説明・資料を添え現況を報告・情報発信して利用者へのサービスの向上に取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に担当者とコンタクトし利用者にとって有益な情報収集、緊急ショート利用に関わる相談を行う際に事業所の実状や取り組みを伝えながら支援状況や実態を把握して頂き適格なアドバイスを頂けるようにしている。	生活保護法改正や介護度の区分変更の説明・相談等、日頃から必要な情報提供を受け協力するなど取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束委員会の開催時や定期的な勉強会等で身体拘束に値する禁止行為や弊害、利用者が受ける精神的かつ肉体的な弊害を学び、拘束の有無の再確認を行い、拘束をしないケアを実施している。	8名の委員会で勉強会を開催し、身体拘束の理解を深め各職員で内容を共有し、事例検討など、拘束をしないケアまた外出の気配を感じたら、さりげない声掛け・一緒に散歩するなど・安全に過ごせ、尊厳を守る体制が構築されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法研修、メンタルヘルス研修、接遇・マナー研修の勉強会を開催し利用者・家族・職員の良好な関係性を築き、虐待の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者が1名入居している。今後もこの制度について理解を深め、権利擁護について、施設内研修にて学び、関係機関との橋渡し等、必要な支援に努めて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の方針や重要事項について、順を追って十分説明を行っている。その後の改訂(経費の増額)や契約解除(退所)の際にも趣旨を説明し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自身の感情を表現できない利用者が多く、日頃から言動に注視し感情を察する様に努め、家族の面会時や電話連絡で注視した事柄を伝え家族の意見、意向を聞き取り支援に反映している。話難い事は意見箱を活用し反映している。	コロナ禍で、面会も制限中ですが、電話・施設の便りで家族の意見等を聞き運営に反映、またフロア会議などで、利用者の要望を確認し、事業所外の相談所も周知され、意見が出しやすい環境に取り組みられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り、担当者会議、カンファレス等にて職員個々の提案や意見を取り上げ改善対応策を採用しサービス内容に反映させ最善の支援が提供できる様にしている。	日頃から会議や現場で職員の意見を聞くように努め、個人の思いや悩み・意見などを聞いたり、目標に向けサポートを行い職員の意見を反映させ、一人ひとりがやりがいのある職場づくりに取り組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心をもって働いていけるよう、職場環境の見直しを行っている。コロナ環境の中、マスクの補充や衛生管理の徹底、整備に努めてる。給与では処遇改善・特定処遇改善金を支給し給与水準の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加はコロナ渦により低迷しているがリモート研修が出来る様に環境改善を行った。内部研修は今まで通おり行われている。職員の意識が向上し、資格取得に向けて励んでいる方が増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦により外部の同業者との交流はできず、内部交流を行っている。イベントや利用者同士の交流も低迷しており、今後の課題や業務、サービス内容について取り組み方法等、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談においては相手の表情、声質、仕草を観察しながら定期的に「宜しいですか？」と声を掛けた返答を聴き相手の真髓となる要望を聞き出す様に心掛け、1つ1つの事に時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に、本人の直近の状況、価値観、生活習慣を聴くと同時に家族の価値観、本人に対しての心情、施設への要望を聴き事業所とし支援できる事を伝え関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の真意を見極め、当事業のみで無く他の事業所のサービス内容の説明と比較内容を説明し、家族と本人が選択できる状況を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者の身体能力や性格に合わせ最大限の力が発揮できる分野を職員と協力をしながら遂行し日々の生活を職員と利用者の両者が助け合いながら過ごし関係の構築を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に日常の様子を報告する中、家族・本人の両者の意向をそれぞれ各自に伝え両者が相手の存在が必要と感じ取れる様に働きかけ最善のサービス支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦による面会制限があり面会者は近親者のみ短時間、少人数となっている状況にある為、手紙や電話等の支援を通じ友人関係が途切れない様に努めている。	面会制限時は、関係が途切れないよう手紙や電話のやり取りで支援し、馴染みの関係を維持できる環境づくりに取り組まれ、特に家族や親せきとの関係が中心になっており、重度化になっても利用者・家族の繋がりを大切に支援がなされています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性別や性格の不一致から利用者同士の意見が対立し孤独感を抱かない様に職員が仲介し両者が助け合い、かばい合える様な雰囲気を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業者へ移られた利用者や特殊な疾患による医療機関へ入院された利用者は病棟や家族に近況を伺ったり、これまでの関係性を断ち切らない繋がりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	病状から本人が自身の意思を表に表し難い状況があり時々の表情や言動、在宅での生活習慣を考慮し本人が求める意向を導き出し、時には家族の助言を用いて統一したサービス提供をしている。	利用者に寄り添って話を聞き、思いを把握出来るように努め、困難な場合は本人に合った対応方法を家族・他の職員から助言を受け、日々の生活で表情や動きから思いを把握し、本人の希望に沿った生活が出来る支援に取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の全体像をつかむ為には生活歴や人脈、家庭や地域での役割等、これまでの暮らしの把握が鍵となる。些細な情報でも職員間で共有し最善の生活支援のために役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、わかる力が十二分に発揮できる様に生活リズムや日々の変化を職員間で情報共有、把握し小さな変化にも対応できる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人や家族の意向を基にアセスメント、モニタリングを専門職種が意見を出し合い現状の中で最善の介護計画書を作成しサービス提供を行っている。	利用者や家族の要望を確認し、現状に即した支援となるよう介護計画に反映させ、本人の意向や意見を大切に実情に合わせ、得意な事・好きな事をプランの中に取り入れ、生き生きとした生活をして頂けるプランを作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルにはバイタル、水分量、食事、排泄、入浴、内服薬についての記録書や本人の毎日の生活の中で起こった出来事を記載した記録書が綴じられ、それを元に介護計画書を作成し定期的に内容を確認し支援を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	長期入院による、空床が生じた場合、空床を活用して家族のレスパイトケアや広いニーズに応える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の慰問交流や開設記念行事、クリスマス会等を通じて地域との繋がりを意識する時間を過ごしていたが、自粛中により、徐々に再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が望む医療機関や医師への受診が成され、各自かかりつけ医が定着されている。それ以外の受診は、家族と連携を取り、対応の準備をしている。歯科については、協力医があり、訪問診療が行われている。	それぞれの利用者が、かかりつけ医や専門医との定期健診等、家族の協力を得ながら各自の医療機関とも連携を図り受診されています。24時間体制で同施設内のケアサポートセンターとも連携がとられており、迅速に対応できる体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所に看護職員が在住した事で介護職員が気づいた事を、随時相談し迅速な処置ができています。同職種間での連携で訪問看護ステーションや医療機関の看護職員とスムーズな体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、速やかに情報提供が出来る様にし、慣れない環境の中でもストレスや不安等が軽減出来る様に、必要な情報の共有を図っている。退院時にはスムーズに、施設での生活に戻れる様に、必要な対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を設け、指針に沿って対応するとともに、状態の変化がある度に本人・家族と話し合いや医療からの説明と確認を行っている。施設内研修では看取りについて学んでいる。	定期的に研修が行われ、職員全員で情報を共有し支援に繋がれるよう体制を整えられています。研修だけでなく、施設での看取りの経験から今後の事業所としての支援に生かせる体制へと繋がられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時のマニュアルは整備されており定期的にマニュアルを周知する事で、迅速かつ確かな対処や処置が出来る様にしている。心肺蘇生(AED、酸素ポンプの取り扱い)等も定期的に講習をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の津波一時避難所に指定されています。災害時の避難が迅速でスムーズに行える様、定期的に火災・地震・津波などを想定した訓練を行い各職員が施設の構造を周知している。	定期的に様々に想定された訓練を実施されています。コロナ禍の中、地域の方の参加は難しいものの避難所として訓練している様子を利用者と一緒に見守るなど、現在の環境に合わせての対応を様々な工夫されています。	現在の環境の中、地域の方の参加は難しいものの、災害時を想定された避難の流れなどの情報を地域の方と施設とで、毎年共有されることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉かけや、プライバシーの配慮については、月に1度のカンファレスや定期的に行われている、施設内研修にて、自己の振り返りや再確認を行っている。	研修や日々の接遇の中、職員間で常に意識し、利用者の尊厳を大切にされた支援に取り組まれています。職員や管理者と、常に気になる事等を話し合いながら処遇に生かされる体制が整えられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で、信頼関係を築き、本人の表情から気持ちを読み取ったり、1人ひとりにあった声掛けや、筆談等を用いて、利用者を選択肢を提案し、希望に添え、自己決定出来る様に、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、1人ひとりのその日の体調や気分配慮し、その方の望む、したい事を支援できるように柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、洗面所にて、各々整容を行う。 イベントに参加する際やお誕生日のお祝いの出席時には、お化粧品や衣装を替えをして、日頃見れない表情もみられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は施設提供食であるが、1人ひとりの好みや、苦手なものを把握し、季節毎のイベントを通じ、おやつ作りを行い、職員と利用者が一緒に調理や、片付けを行い、1日の大切な活動としている。	利用者の機能を生かせるよう、準備や片付けなど出来ることを一緒に手伝ってもらいながら支援されています。イベント食ではみんなで作ったり、バイキング形式で好きなものを選んだり、外食を取り入れたりしながら楽しんでもらえるよう工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎日毎回、管理しており、体重の増減や食事形態・口腔環境により、その都度検討を行い、1人ひとりの嗜好にあった食事の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は皆、口腔ケアを行う。各々の力に応じて、介入を行い口腔内の状態や残存歯の状況等を確認、義歯に不具合等があれば、歯科医の訪問診療に繋げている。義歯の衛生管理は勿論の事、ケア用品の消毒や交換も定期的に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて個々の排泄間隔の把握をし、排泄管理を行い失敗のない、自立に向けた支援を行っている。排便の形状・臭い、排尿の色などから体調の変化や排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表は、職員全員が一目で確認できるようにされています。日々の些細な変化も職員間で情報を共有し、処遇に生かされています。自立支援にも個々の様子に合わせて対応されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの1日の水分量・食事は勿論の事、排尿量や回数を把握し、お茶以外にも、嗜好飲料やオリゴ糖などを提供し、その方に合った運動と1日2回のラジオ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を把握し、身体状況によりその方に合わせた入浴方法を検討し、意向に沿った支援を行っている。心身のリラクセスをして頂くために、ゆず湯や、入浴剤を入れ保湿や、保温効果となるように、支援している。	利用者の、その日の気分や体調を考慮しながら支援されています。一緒に着替えを用意したり、入浴剤だけでなく柚子やお花を浮かべたり、気持ちよく楽しんで入浴して頂けるよう工夫され、入浴後も保湿やその他のケアを個々に沿って支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々に応じた、生活リズムや年齢、その日の体調や身体状況に応じて、休憩時間を設けたり、活動を促している。夜間帯は光や騒音等、温度・湿度管理を行い、良質な睡眠へと繋がるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している定期薬・臨時薬の用法・用量の管理表を使い、経過観察や状態の変化に等に関する記録を取り、看護や医療機関に繋げている。誤薬を防ぐため、朝・昼・夕の色分けや、投薬時には指さし・声出し、Wチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事が済むと、進んで、洗い物をして下さる方、洗濯物を取り込むと「こっちに、持ってきよ」と畳んで下さる方、1人ひとりが得意分野で、力を発揮され、支え、支えられて、感謝の言葉を大切に日常生活を送っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の重度化に伴い、事業所全体での外出支援が難しくなっているが、外気浴として、施設周辺の散歩をしたり、市内のドライブ等、気分転換に努めている。	コロナ禍で外出が思うように出来ない中、施設周辺の散歩に出かけたり、定期健診で出かけた帰りに馴染みの場所を訪れたり、地域のイベントに参加は出来ないものの、その場所に出かけ車内から雰囲気を感じてもらったり、利用者の希望や気分転換等に配慮されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の計算や価値、金銭感覚は存在するも、その管理は難しくなってきたり、欲しい物、必要物品の手配等は、家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍により、外部との交流機会が減り、その為、手紙や電話が交流の手段となっている。年賀状や暑中見舞いなど、字の書ける方には書いて頂き、家族との電話では、ゆっくりとお話頂ける様に、配慮し、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように、四季折々の作品を展示したり、イベントを行っている。コロナ感染症対策として、定期的に換気・消毒を徹底的に実施し、心地よく過ごして頂けるように、温度・湿度管理はもちろんの事、環境管理に努めている。	感染症予防対策や温室管理はもちろんのこと、利用者が居心地よく過ごせるよう体調や必要性を考慮され、支援に努めています。季節やその時々の方々の行事等も職員の方と一緒に楽しみながら、共用空間づくりを工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの生活習慣や認知症の進行により他者との、交流を好む方や、1人で過ごしたい方、各々が思い思いに過ごせるように、共用空間の席の配置など、場面場面に応じた、対応や支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、使い慣れた家具や布団等があれば、持ち込んで頂き、利用者が安全・安心に過ごせ、居心地の良い居室空間作りに努めている。	利用者や家族が居心地よく過ごせるよう思い思いの居室づくりに取り組まれています。温室管理に配慮され安全・安心に過ごせるよう支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの認知機能に応じて、混乱や不安を招くような、物品の配置や環境などを排除し、安全に自立した日常生活が送れる様に、支援している。		